

2021年6月27日

新田サドベリースクール
長谷 洋介 様

視察受け入れの御礼

謹啓

向夏の候、貴スクール、ますます御盛栄のこととお慶び申し上げます。先日は、コロナ禍の難しい社会情勢下にも拘わらず、温かく受け入れて頂き、厚く御礼申し上げます。

サドベリースクールでの一日を拝見させて頂く中で、①年齢に拘わらず、子ども一人一人が他者の意思を尊重する姿、②参加を選択した話し合いにおいて議題に自分事として向き合う姿、③ゆったりとした空間の中にもメリハリのある時間の流れを感じることができ、魅力の一端を学ぶことができました。

上記①～③は主に、話し合いに関わる場面で見られた訳ですが、特に、屋食のうどんが茹で上がっている間、約束された話し合いの時間が優先されたことには感銘を受けました。情性に任せない核心部分が民主的な運営の根幹をなし、①～③の姿や様子を生み出しているのだと感じられたからです。

また、運営経費の資料やルールの運用に関する記録を閲覧させて頂き、感謝しています。大人が一方的に定めるルールがないことは勿論ですが、そのルールの運用でも子ども達も話し合い修正する姿が記録されており、ルールが排除のための仕組みではなく、よりよい集団生活に向けた手段として柔軟に機能していることを垣間見ることができました。

さらに、勉強部屋がメインルームと音楽室の動線上にあるといった広さに伴う限界はあるものの、室内空間での人格的管理空間（他者の視線に影響されない空間）や少人数でゆったりできる場所や設え、調度品や壁紙の色彩など、個々を大切に作るスクールの理念を体現した室内空間や、屋外の手造り遊具の配置（前傾斜地や崖にゆらぎのある遊具を設置）など、環境構成でも多くの示唆を頂きました。

資金獲得も含めた物語を強要・期待しすぎることなく、また、話し合いの中でも議長としてある程度の役割を大人が（子どもと対等な大人が）担うなど、子どもの年齢に応じた長谷さんの柔軟な対応もスクールの肝と感じています。

とりとめもない文章になってすいません。一日しか拝見していない者が分かった気になつてもりはございません。機会を見つけて再度の訪問をお願いしたいと思いますし、長谷様をはじめ、スクールの子どもも、東北地方に来る機会などありましたら是非お声掛けください。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

東北文科大学
下村一彦